

近畿地整・建設コンサルタント近畿支部で 第4回合同現地研修会を開催

H27.12.17

～河川部 河川計画課～

平成27年12月7日(月)整備局若手技術者とコンサルタント技術者が合同で現地視察し、具体事例を踏まえた疑問点、課題などに関して意見交換をすることを通じ、現場をみる目、考察力の研鑽等、相互の技術力の向上を図ることを目的に合同現地研修会を実施しました。

今回で4回目をむかえ、整備局18名、建設コンサルタント協会12名が参加しました。

■ 現地視察

・現地視察は、平成23年台風12号で、大規模斜面崩壊による河道閉塞や土石流が発生した紀伊山地の赤谷地区、清水[宇井]地区(ともに奈良県五條市)を対象に実施しました。

・現地への移動中に、平成23年台風12号時の映像により、当時の状況を把握し、現場では、紀伊山地砂防事務所の担当者がパネルを用いて、現在の工事の状況を説明しました。



担当者から説明を聴く参加者【赤谷地区】



赤谷地区



清水(宇井)地区

■ 意見交換会

・現地視察後、紀伊山地砂防事務所へ移動し、『大規模土砂災害発生時における初動対応について』をテーマに、4班に分かれ、ファシリテーターのもと、行政・コンサルタントというそれぞれの視点から意見交換を行いました。

意見交換会での主な意見

- 災害発生は、まずヘリやドローンによる概査が必要。
- 衛星写真やGoogleマップなどを活用し、土砂量の把握を行う。ただし、正確な把握ができるのか課題。
- 行政は、不明確な情報であっても、積極的に発信すべき。コンサルは、地形や地質から助言を行う。
- Twitterといった、SNSを活用した情報発信が有効。ただし、誤った情報もあり、注意が必要。



活発な意見が交わされる

参加者の感想

- 大規模災害の現場を見る機会はないので、貴重な経験ができた。
- 技術的な意見交流は、意味があると感じた。
- 色々な立場の方々から意見を伺うことができたので、非常に勉強になった。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川計画課 調査第二係
〒540-8586 大阪市中央区大手前1丁目5-44
TEL 06-6945-6355

